

「 聖 霊 の 証 印 」

詩 篇 第8篇4節～6節
エペソ人への手紙 第1章7節～14節

説 教 岡村 恒牧師

聖書は、地上を旅する私たち人間に向かって、あなたがたには、「約束された聖霊の証印」(13節)を押されている、と宣言します。

私たちの教会では、洗礼を受けると、〈消されることのない罪の赦しのしるし〉を身に帯びる、と信じています。ちょうど家畜の群の一頭一頭に所有者の刻印が押されているように、洗礼を受けた者を神がご覧になると、他の誰のもでもなく、神のものであるという〈しるし〉が確かに押されているのです。洗礼は、神と無関係であった罪人を、神に属する者、神に愛される者に変えてしまうのです。

主イエスの弟子たちに聖霊が降った日、ペテロの口から主イエスが救い主である、という福音が大胆に宣べ伝えられました。この説教を聞いた人々は心を打たれ、「兄弟たちよ、わたしたちは、どうしたらよいのでしょうか」と尋ねました(使徒行伝 2章37節)。そこでペテロは答えて言いました。「悔い改めなさい。そして、あなたがたひとりびとりが罪のゆるしを得るために、イエス・キリストの名によって、バプテスマを受けなさい。そうすれば、あなたがたは聖霊の賜物を受けるであろう。」(同 2章38節)

自分の人生を振り返って悔い改め(方向転換)をし、主イエス・キリストを救い主と信じて洗礼を受けると誰でも、約束の賜物(=プレゼント)として聖霊を受けることができます。この約束は、主イエス・キリストご自身が約束して言われたことです(ヨハネによる福音書 14章16節～17節)。そしてこの約束は、今も、世界中で響き続けています。

エペソ人への手紙第1章の前半には、「あらかじめ」という言葉が繰り返し登場します(5節、9節、11節)。天地宇宙が創造される前から、私たちのための救いの計画が用意されていた、という話です。そうして天地創造以来、神の救いの計画が着々と実現に移され、やがて「時の満ちるに及んで」(10節)、決定的な救いの出来事が起こった、と言うのです。この「時」というのは、ただ流れ去っていく時ではなく、神がお定めになった特別な時という意味です。神のご計画によって定められたたった一度きりの、かけがえのない救いの時の話です。

この時が来て、御子の「血によるあがない」(7節)が実現しました。私たちは、神との関係が完

全に失われていたことも、本当の希望を求めることも、永遠の命を求める求め方も知らなかったのです。しかし神は私たちのために救いの道を用意し、御子イエス・キリストの命をもって「あがない」を実現して下さいました。奴隷の代価を払って解放し、自由にする「あがない」の話です。死と滅びの奴隷であって、自分の力ではそこから決して脱出することができない私たちを、神ご自身が代償を支払ってあがない、解放して下さいました。

このあがないは、完全に一方的な神の恵みによって実現したことです。全知全能の神は、無から有を生じさせることがおできになるお方です。何一つ不足しているものなどありません。私たちが何かをお捧げして初めて神が満足する、というものなど何一つないのです。ですから神は、私たちの罪の赦しさえ、全く一方的な恵みとして用意し、お与え下さいました。

聖霊なる神は、私たちの内側で働いて、この神の恵みについて、救いについての知識を与え、私たちが信仰へと導いて下さいます。代々の教会は、この聖霊が教えて下さる神の約束だけを信じて、この約束だけに希望の根拠を見いだし歩んできました。本来、神の国と無縁の者が、ただイエス・キリストを信じる信仰によって神の子とされ、神の国を相続するキリストの共同相続人とされた。これが聖書が語る福音(良い知らせ)なのです。やがて終わりの日、神の国の食卓に私たちもついて、父なる神の前で食事をし、神をほめたたえることができるようになるのです。これは主イエスご自身の約束です。

この相続の「保証」が聖霊です。神は、神の国を相続させる約束の保証として、イエス・キリストの霊を、信じる者の中に住ませ、約束の確かさを確信させて下さいます。神は生きて働いておられます。今もこの場所で、私たちの人生のただ中で力強く働いておられます。

すべてのキリスト者は、聖霊の証印を押されています。これは確かなことです。そのまま信じて良い神の約束です。私たち自身の自覚や確信よりも、この神の言葉の方がはるかに真実ですから、私たちは安心して、聖霊の証印を押された者として歩んで良いのです。

(記 岡村 恒)